



月刊レオナンデス通信

www.nakanishireo.com/ 平成25年7~9月号 発行:中西レオ応援団

「明石市は今後、大幅な収支不足が見込まれます。」
「明石にはお金がないんです。」あたかも経営破綻寸前で、細々と予算を組んでいるかのよう聞こえます。しかし、新市長の下では、事業見直し額よりも新規事業額がはるかに上回っています。本当にお金がない市ではこのように支出を増やせません。

市長は「金がない」と言っても お金ありました

立て続けの大型事業

新市長の下、駅前再開発（104億円）、中学校給食（建設費32億円+毎年5億円）、中3まで子供医療費無料化（毎年4億円）といった大型事業が立て続けに推進されています。

出を決めて入りが足りない

役所が予算を決める際には、「財源」があるはずで、他の事業を減らしたり、借金の支払いが終わった分、または収入が増えた分を充てて新しい取り組みをするものです。しかし、現在の明石市は財源を確保せずに支出を決め、「市民に必要なサービスでも、事業を見直さない」と、お金が足りません。と騒いでいます。つまり、「お金はあったけど、使いたい事業を先に決めたので、足りなくなりましたよ。」ということなのです。

あなたの要望に 金はないということ

市長は市民との意見交換会で、「就任してみても驚いた。明石にはお金がない。」と挨拶して先制攻撃しました。つまりは、「大型事業でお金が足りなくなりそうですので、みなさんの今まで受けてきたサービスの削減をご了解ください。当然、皆さんからの提案や要望には応えられません。」ということであり、「金がないのは私のせいじゃない。」という意味にも聞こえます。

「明石にはお金がありません」

- * 明石駅前再開発
- * 中学校給食
- * 子供医療費無料拡大
- * 文化施設等の無料化

収支が合わないの
で市民サービス見直し

新年度 松が丘・二見を幼保一元化 焦る市長、凍る現場

11月募集、4月開始

議会答弁や就学前の教育・保育のあり方検討委員会で出された市の考え方は、市立松が丘幼稚園と市立二見幼稚園について、来春からの幼保一元化を目指すとなります。（認定こども園ではなく、建物も別）

幼保一元化の賛否以前に、委員が戸惑うような進行の検討委員会を根拠として大急ぎで始めることに危機感を抱いています。

幼稚園を保障している

明石市は28の市立小学校すべてに隣接して市立幼稚園があることが特徴です。つまりは、市民は均しい幼児教育の環境にあるということ。今回はその前提を変えることにもなりますので、慎重な検討と、幼稚園・保育所・保護者に意見聴取して、課題の克服と、関わる人たちの理解と納得および不安の解消が必要です。

重い課題が山積みだが

幼保一元化と認定こども園の違いは？、なぜ認定こども園ではないのか？、保

護者の理解は？、カリキュラムの扱い、3歳児の扱い（明石市立幼稚園では3歳児を受け入れていない）、取り組むべきことは山ほどあります。

幼保一元化は民営化にも繋がる明石市の子供施策にとって大きな変革です。これに関わる人々が理解し、納得し、不安を解消してこそ事を成すことができます。混乱必至で突き進むより、着実に前に進めることが子供のためです。

急がば回れ

本来は良い取り組みでも、適切な進め方ができなければ、遅くなったり、しなくて良い失敗をすることがあります。

中学校給食の導入は、現場の課題や自身の議論を軽視し、スケジュールを優先させた結果、逆に実施が遅くなりました。

あかし教育会議（あかし教育懇話会に変更）は、運営の拙さにより議論が進まなくなりました。同じ失敗を繰り返してはいけません。